

2026年3月・4月

166号

## 第6回日本語歌コンテスト



第6回日本語歌コンテストは、2026年1月10日に開催されました。このイベントはNKKSがラマクリシュナ・ミッション・インスティテュート・オブ・カルチャーと協力して行い、在コルカタ日本国総領事館の後援を受けました。日本語を勉強している人たちにとって、日本語への思いを表現しながら、自分の語学力や歌の実力を発表できるとても良い機会になりました。

コンテストの審査員は二人でした。一人は、在コルカタ日本国総領事館の首席領事、芦田勝則氏です。もう一人は、ラビンドラ・バラティ大学で日本語を教えているシュリ・デバンジャン・ゴージュ氏です。

また、ラマクリシュナ・ミッション語学学校の校長であるサブジュコリ・セン博士も式典に出席しました。

参加者たちによる様々なジャンルの時代を超えた日本の人気の楽曲の数々が披露されこのプログラムは会場に集まった観客が鑑賞するほか、ライブ配信も行われ、多くの人がオンラインでパフォーマンスを視聴することができました。

参加者の中で、アビプリヤ・チャクラボルティさんが「I7-sai」を、ファリア・カイザーさんが「First Love」を歌い、それぞれ第2位と第3位を受賞しました。スレジタ・ダスさんは「夏の雪」を印象的に歌い、第1位を獲得しました。

観客のみなさんにも楽しんでもらうために、歌の合間にクイズコーナーが行われ正解した人には賞品がプレゼントされました。

全体として、第6回日本語歌コンテストは、音楽と文化交流を楽しめるイベントでした。このイベントを通して、参加者たちの日本語や日本文化への関心が高まっていることがよく分かりました。

ソーハム・サンカル・ムカジー | 和訳: ロビンソン・ゴゴイー

あばたもえくぼ | Someone in love sees pimples as dimples



## スール・プルバさんのインタビュー

スール・プルバさんは、ゴールパークにある RMIC 言語学校で日本語を勉強しました。彼女の先生はニガム和子先生でした。

その後、アルナーチャル・プラデーシュ州のテジュカレッジで政治学の講師として働きましたが、結婚後は主婦になりました。去年、NKKS の年次ピクニックで私は彼女に会いました。

そして、日本語学習の経験や NKKS について話してもらいました。

**Q: NKKS が設立された時、あなたは日本語を勉強していましたか。**

A: はい、その時、私は RMIC で日本語を勉強していました。ニガム先生が私の先生でした。

**Q: ロシア語も知っているそうですね。**

A: はい。私は国際関係学で修士号を取得しました。ロシア語は国際関係の勉強の一部でした

**Q: では、なぜ日本語を勉強し始めたのですか。**

A: 日本は、私がとても好きな国の一つでした。日本の芸術や文化は、子どものころから私に強い興味を持たせてくれました。日本と日本人をもっと知りたいと思い、1980 年代の後半に日本語コースに入りました。

**Q: 日本に興味を持った理由は何ですか。**

A: 第二次世界大戦の後、日本は大きく立ち直り、技術も発展しました。それと同時に、独特な文化や伝統を大切に守っているところが、とても印象的でした。

**Q: あなたの趣味は何ですか。**

A: 読書、旅行、そして旅行番組を見ることです。

**Q: 思い出に残っている経験は何ですか。**

A: いけばなのショーを見たこと、日本領事館に行ったこと、そこで日本人の方々に会ったことなど、すべてが素晴らしい経験でした。NKKS が設立された後は、日本語の劇や歌にも参加し、とても楽しい時間を過ごしました。ニガム先生が私たちのために一生懸命準備してくださったことは、今でも忘れられません。今は日本語との関わりはあまりありませんが、日本語に関わっていたことをとても誇りに思っています。

アローク・バス | 和訳: アディティア・アディカリ



## DID YOU KNOW?

毎年 3 月 3 日に祝われるひな祭りは、古代中国の信仰に由来します。人々は川に身を沐浴して身を清めていました (ハリドワールみたいではないですか?)。

日本ではこの儀式が変化し、人々は邪気を払うために人形を川に流すようになりました。そして、職人技が重視された江戸時代には、各家庭で精巧な雛人形を飾り台に飾るという現在の風習が定着しました。



## NKKS ピクニック

冬の冷たい空気が感じられる頃、今年も日本語会話協会ソサエティの年次ピクニックの季節がやってきました。今回はクリスマスの週間に、昨年と同じ場所、ポッター・ガーデンズで開催されました。メンバーやその友人たちが世代を問わず参加し、会場は明るくにぎやかな雰囲気になりました。朝食や軽食、昼食まで一日を通して用意された美味しい食事、みんなで楽しく味わいました。レクリエーションやチームゲームも行われ、交流が深り、コミュニティの絆がさらに強まりました。参加者の楽しそうな様子や前向きな感想から、日常を離れてリラックスしながら交流できる時間がどれほど大切にされているかが伝わってきました。今回のピクニックも、NKKS コミュニティの一体感を高める、思い出に残る楽しい集まりとなりました。

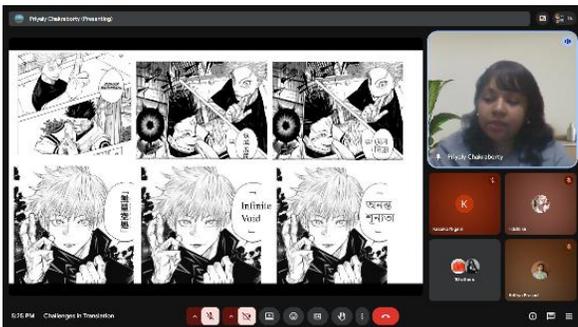
タマリカ・ナグ | 和訳：タマリカ・ナグ

儂く散ってしまう前に、早咲きの桜をライブで見てください

CLICK



### 文脈、文化と敬語：日本翻訳の重要な点



2月22日、私はプリヤリ・チャクラボルティ先生による「翻訳における課題」というテーマのセッションに参加しました。セッションでは、翻訳者が文脈を正しく伝えることの難しさについて、さまざまな視点から分かりやすく説明がありました。また、日本語の基本的な文の構造が、語順の面でヒンディー語やベンガル語と似ていることについても紹介されました。さらに、発音や細かなニュアンスを正確に理解することの難しさや、状況によって変化する敬語の適切な訳を見つけることの大変さについても話されました。

翻訳では、単に言葉を置き換えるだけではなく、その場面や人間関係を考える必要があるということが強調されました。セッションをより興味深いものにするために、先生は有名な漫画・アニメ『呪術廻戦』の例を用いました。漫画は現代の日本文学の一つであり、主に若者や若い大人を対象にしています。作品を翻訳する際には、直訳ではなく、キャラクターの性格や話し方に合った表現を選ぶことが大切だと説明されました。また、『ドラえもん』のオープニング曲の英語版とヒンディー語版の翻訳の違いも紹介されました。この例から、翻訳者には文化への深い理解が必要であり、日本の文学作品をより多くの人に分かりやすく届けるためには工夫が求められることが分かりました。今回のセッションを通して、翻訳者の思考過程について学ぶことができました。そして、文化的な影響や読者・視聴者に合わせた調整の重要性を改めて理解することができ、とても有意義な時間となりました。

アディティヤ、プラサード | リティカ、ムカルジー

## なぞなぞ

- クシュブ・アガルワル

林の中で食べるご飯ってなあに？



2025年1月・2月のなぞなぞの答  
蠟燭



2026年3月14日(土)  
午後5時

第41回印日文化祭

場: Rabindra Okakura Bhavan

2026年4月5日(日)  
午後5時

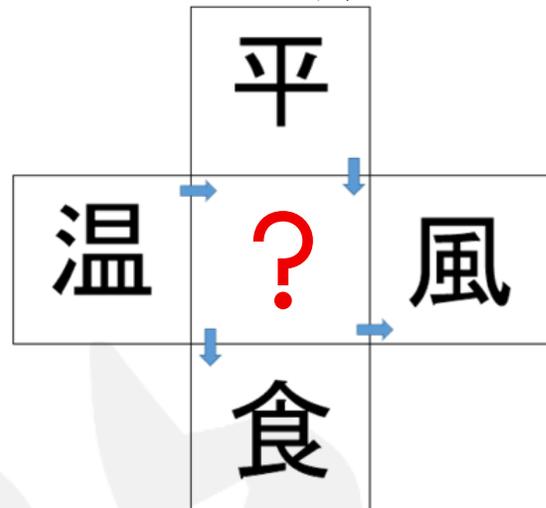
日本人の同僚

~シルロイ・スプラティック

📧 詳細はメールで送信

## 穴埋め

- アデシュ・クマール・サ



真ん中の空いているところに漢字を一つ入れて、そこにある四つの字と組み合わせると、それぞれ意味を持つ単語ができるようにしてください~

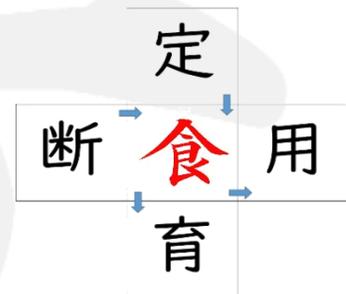
2025年1月・2月の穴埋めの答え

断食 Fast

定食 Set-meal

食用 Edible

食育 Nutrition



ビデオを見るためにQR

コードを使用してください!

第6回日本語歌コンテスト



[こちらをクリック](#)

日本にポケモンパークの開催



[こちらをクリック](#)

BOOK POST

If undelivered please return to:  
NIHONGO KAIWA KYOOKAI SOCIETY  
2B, SHIVANGAN 53/1/2, HAZRA ROAD  
KOLKATA - 700 019